

「核構造の真の理解に向けて –テンソル力と高運動量成分– 戦略会議」

日時：2010年11月25-26日

場所：核物理研究センター 4F 講義室

●プログラム

11月25日(木)

13:30- (座長：上坂)

はじめに

明孝之 Tensor correlation in light nuclei studied with tensor optimized shell model

谷畑勇夫 どうやって、核内核子の高運動量成分をみるのか？

(休憩 20分)

(座長：土岐)

小川洋子 パイ中間子交換力を陽に取り入れた原子核多体理論の構築

民井淳 1+状態の励起強度、基底状態の p-n テンソル力相関、巨大共鳴の微細構造

矢向謙太郎 逆運動学 (p, n) 反応で見る  $^{12}\text{Be}$  の基底状態相関、など

上坂友洋 高運動量移行を伴う少数核子反応におけるテンソル力効果

18:00 - 懇親会 (RCNP 本館 4F 談話室)

11月26日(金)

9:00- (座長：川畑)

鈴木俊夫 テンソル力とシェル進化

王恵仁 (p, d) 反応によるテンソル力の探索

(休憩 20分)

(座長：肥山)

中田仁 低エネルギーに現れるテンソル力

関口仁子 少数核子系の実験から

(昼食)

13:50- (座長：延与)

青山茂義 第一原理核反応計算を用いた d+d、t+p 弾性散乱のテンソル力によるク  
ラスター構造の崩れの分析

板垣直之 軽い核におけるクラスターとテンソル力、スピン・軌道力との競合

(休憩 20 分)

(座長：民井)

議論 とるべきデータについて。問題点と課題の整理。実験と理論の戦略。

17:00 終了